

18) (社) 日本有病者歯科医療学会設立の経緯

History of foundation of the Japanese Society of Dentistry for Medically Compromised Patient

日本歯科大学病院	○白川	正順
日本大学歯学部	工藤	逸郎
鶴見大学歯学部	瀬戸	皖一
石川県立中央病院	宮田	勝

Masayori Shirakawa, *Nippon Dental University Hospital*

Itsuro Kudo, *Nihon University School of Dentistry*

Kanichi Seto, *Tsurumi University School of Dentistry*

Masaru Miyata, *Ishikawa Prefectural Central Hospital*

緒言：20世紀末から、わが国ばかりでなく、世界的に人口構造の大きな転換期を迎え、まさに21世紀を境に、少子高齢化時代が到来した。とくに、わが国は総務庁統計局の統計によると、1990年時65歳以上の高齢者人口が全人口の12%、2000年17.2%、2010年では23.2%と膨張の一途をたどり、さらに2025年には27.4%と推定され、類を見ない速度で世界の最長寿国となった。これに伴って、有病者（基礎疾患を保有する人）人口が急増し、歯科受診患者の年齢層や疾病構造が変化し、有病者の来院数が増加していることは周知のごとくである。

最近では基礎疾患をもつ患者を「有病者」と呼び、その歯科医療を「有病者歯科医療」と呼んでいる。日本有病者歯科医療学会が設立され、時の経過がその名称のイメージを確実なものにした。それにしても、この名称が定着するのに21年を要した。

目的：このように21年の歴史を踏まえ、平成25年3月開催される第22回の学術大会を前にして、設立の経緯について述べた。

本学会の設立理念：Dentistry for Medically Compromised Patient と英語名称が示すように「医学的な配慮を必要とする患者の歯科医療」つまり、基礎疾患を保有する患者の歯科治療を安全、安心に行うばかりでなく、学際的に研鑽、討議し

学際的に発展させることを基本理念としていた。

本学会の設立の経緯：平成2年12月22日（土）に（仮称）日本有病者歯科医療研究会第1回世話人会（代表 故園山昇日本歯科大学名誉教授）が日本歯科大学附属病院で開催された。その後、第2回が2月23日に開催され、第3回世話人会では第3回日本有病者歯科医療学会世話人会（日本有病者歯科医療学会第1回理事会）、日本有病者歯科医療学会発起人会（日本有病者歯科医療学会第1回評議員会）が日本歯科大学8階小会議室で同時開催され初代理事長には故園山昇先生（日本歯科大学名誉教授）が就任した。同日、設立発起人会終了後、セントラルプラザ20階摩天楼で懇親会が催され、学会の船出に祝賀の宴は盛り上がった。初代理事長故園山昇先生、前理事長の内田安信先生（東京医科大学名誉教授）はともに全人的な歯科医療の重要性を唱えてきた。今や、お二人の高邁な理念は、歯科界に、確実に定着している。

第1回学術大会は平成4年2月29日（土）、3月1日（日）の両日、白川正順大会長のもとで開催され、第1回学術大会であったが、特別講演2席、シンポジウム1席、一般演題は83題の演題が集まり盛会裡に開催された。

学会名称、命名に関する論議：当初「有病者という学会名称は違和感がある。」「歯科疾患保有者も有病者ではないか」沸騰した議論の末、この名称で決着した。有病者歯科医療とは前述した如く、「医学的な配慮を必要とする患者の歯科医療」つまり、「基礎疾患を保有する患者を安全、安心に治療する学会」の意であり、この意を名称にすることは余りに字数の多い名称になる。この長い名称を短いワードで表現でき、患者動態をイメージできるのはやはり「有病者が妥当である」ことは論をまたず、この意見が圧倒したからであった。

結語：今後、超高齢化はさらに進み有病者の歯科医療は、歯学の中軸をなすと思われ、平成25年3月の第22回の学術大会を前に、「本学会設立の経緯について」その概要を報告した。